



製品情報

安全安心のものづくり
交通信号用器材

独自の技術力と先見の明で、地方から全国へ 信号機で 安心安全な 交通社会に貢献



代表からひとこと

代表取締役/系永 康平

Kohei Itonaga

信号電材株式会社は、九州・大牟田市というローカルな場から日本全国そして海外へ日本の交通信号機器生産で培われた安全・安心のものづくり技術をベースにBox、Dio、Rao分野で過酷な屋外環境に耐え機能性とデザイン性にも拘った製品開発を進めてきました。Box、Raoの表面処理・塗装・組立の一貫生産ラインやDio生産においても社内JIT活動によって多品種少量生産にも応えられる工場として成長を続けています。



独自開発の信号で 警視庁デビュー

1962年、信号電材株式会社の創業者であり先代社長の系永嶋は東京へ信号工事の出稼ぎに出ました。2年後に控えた東京オリンピックに向けた交通網の整備のためです。その10年後の1972年に先代は九州の交通網整備のため、郷里大牟田へ戻り会社を立ち上げました。まずは、信号の端子箱と電源箱の製造から始め、10年後にはボールの製造、その6年後に点灯部分になるアルミ製車両灯器の開発に成功します。

転機が訪れたのは1992年。朝日や西日が信号のレンズに当たり、どのレンズが光っているのかわからなくなる疑似点灯での事故が相次ぎ、裁判で国が負けてしまう出来事がありました。そこで警視庁は全国の信号機メーカーに対し、疑似点灯を防止する信号機の開発を依頼。信号電材は町の発明家と一緒に試作品を作っては実際に太陽に当て、試行錯誤を繰り返しました。そしてついに、太陽光を遮断し、内部から光を出すことができるオリジナルの多眼レンズを取り付けた新型車両灯器「疑似点灯防止型92B」の開発に成功したのです。大手メーカーはこれに勝る提案ができませんでした。翌年、信号電材の車両灯器は警視庁で全面採用されました。

将来を見据えた行動で 大手メーカーに大打撃

警視庁との契約は3年間。信号電材は、契約期間満了後を見据え、全国に営業所を開設。大手メーカー

信号電材株式会社

社 歴	1972年 信号電材株式会社 設立。/1986年 アルミ製車両灯器 開発に成功。 1992年 疑似点灯防止型92B開発。/1999年 車両LED灯器開発。 2010年 屋外照明事業 SD.Hess Lighting株式会社設立
所 在 地	〒836-0061 福岡県大牟田市新港町 1-29
代 表 者	代表取締役 系永 康平
従 業 員 数	135人
事 業 内 容	電子部品・装置
設 立 年	1972年

携帯電話・スマートフォンでご覧いただけます！

企業紹介ムービーはこちら



企業サイトはこちら



に先駆けてLED灯器の開発に着手しました。地方の中小企業が二歩も三歩も先を読んでいたことは大手メーカーに大打撃を与えたのでした。

信号電材は、さらに将来を見据えて2010年に屋外照明事業を行うSD.Hess Lighting株式会社を設立しました。今後、国の予算が縮小し、なおかつ、カーナビが発展していくと、道路にある信号や標識、看板など、さまざまなものが複合化されていくことが予想されます。それでも最後に残るのは信号と照明だと考え、照明事業に乗り出したのです。より付加価値の高いものを独自開発し、日本のみならず、世界へも展開していくビジョンを描いています。